

## 平成29年6月 定例自然観察会報告書

六甲山自然案内人の会 1班

日 時 平成29年 6月10日(土) 10時 JR須磨駅 集合  
14時10分頃 JR須磨駅 解散

場 所 須磨海岸

テ ー マ 「須磨海岸で海浜植物を楽しむ」

参 加 者 ビジター44人(内子供2人) 会員32人  
(ビジター5班 会員1班の6班編成で観察)

コ ー ス JR須磨駅～線路沿いに東へ～須磨海岸中央広場で昼食～海水浴場を西に歩  
く～海浜植物保護地～JR須磨駅

配布資料 コースマップ

コースタイム

10時	集合 班分け、コース概要説明
10時10分	準備体操
10時15分	観察開始
11時40分	昼食
12時10分	集合して中央広場から見える旧和田岬灯台の説明
12時20分	観察開始
13時30分	海浜植物保護地。ポートアイランドなどの埋め立てに 41年間も使われたベルトコンベア施設跡で説明。
14時10分	JR須磨駅。到着した班から順次解散。

概 要 日陰のまったく無い海岸での観察会だったが、幸いに、快晴ながら風があり、暑さは凌ぎやすかった。下見を始めたころは海水浴場が改修中で、重機が動きトラックが走る慌ただしさの中を歩いた。観察会前には海水浴場の改修も終わったが、観察するはずの周囲の草もきれいに刈取ってしまわれるというアクシデントがあった。

午前中の観察は近くに貿易港がある海岸の特有の帰化植物を中心に観察をする。

ホソムギ・コマツヨイグサ(オオバナコマツヨイグサ)・メマツヨイグサ・イヌムギ・オッタチカタバミ・ムラサキカタバミ・トゲヂシャ・ナヨクサフ

ジ・カラスムギ・ハマツメクサ・マメグンバイナズナ・ハナハマセンブリ・  
クスダマツメクサ・コメツブツメクサ・コメツブウマゴヤシ・アメリカネナ  
シカズラ・オオオナモミ・チガヤ・ハマヒサカキ・ツルナ・シャリンバイ・  
マサキ・トベラ・コバンソウ・ヒメコバンソウ・ツキミマンテマ・ハマヒル  
ガオ・オオキンケイギク・ナンキンハゼ・ハマゴウ・ヘラオオバコ・ツボミ  
オオバコ・スズメノチャヒキ・ヒメツルソバ・キリ・アレチギシギシ・カタ  
バミ・オニタビラコ・

午後は須磨海岸中央広場～海水浴場～松林から海浜植物保護地で  
クロマツ・ニワウルシ・オカヒジキ・コウボウムギ・コウボウシバ・マンテ  
マ・シロバナマンテマ・キヌゲチチコグサ・ウラジロチチコグサ・コゴメバ  
オトギリ・マツバウンラン・ニワゼキショウ・イヌホオズキ・ハマボウフウ・  
ハマエンドウ・ハマダイコン・ヌカススキ・メドハギ・ヒメジョオン・ハタ  
ケニラ・アレチヌスビトハギ・ハマユウ・クズ・シロツメクサ・ギシギシ

その他 カラスムギの芒を使った実験

水分を含ませたオアシスを用意し、乾燥して「く」の字に曲がったカラスム  
ギの芒を差し込み、芒の先を回転させる実験を各班でした。カラスムギの芒  
は根元の黒っぽい方にねじの溝のようになった振れがあり、この部分が水分  
を含むと、振れを戻しながら深く地中にくいこむという性質を使ったものだ。  
まるでどこかに動力があるような回転に、会員の自主研修の時も今回も、皆  
さん驚きの声をあげ大変好評だった。

感想 大都会の海水浴場の敷地の中、水遊びやヨットを楽しむ人々の傍でひっそり  
と命をつなぐ海浜植物たちを充分愛でていただけたと思う。私たちはこの狭  
い場所で生きる海浜植物たちを絶えないように守り、次の世代にも残してお  
かないといけない。

ハマゴウを観察



ハマボウフウとコウボウムギを観察



報告 石田淑子